

家庭でできる犬の歯石除去方法

家庭で飼育され人が手を加えたものを食べている犬は、歯磨きをしないと歯石が付着しますが、野生動物は歯磨きをせずとも歯石がないといわれています。

このため、野生動物が食べているものと同じような固さと筋繊維のあるものを与える
と歯石が取れるのではないかと、この考えに基づき、歯石が付着した犬に二種類の食べ物
を与えて実験しました。

**✓本実験は、アニコムグループの職員が飼育している犬を対象に行っております。実験
中で行われている事例は、安全性や効果が完全に保証されているものではないこと
にご留意いただき、万が一、事故が生じても当グループは責任を負いかねますことをご
了承ください。**

(1) 市販のペット用の骨（豚の大腿骨を茹で乾燥させたもの）

①素材選択の根拠

- ・固さがある
- ・市販品で安全性が確保されている

②与えた量

1日に1回（丸飲み防止のため飼い主が手に持ち、歯石の部位で噛ませた）

③期間

7日間

④結果

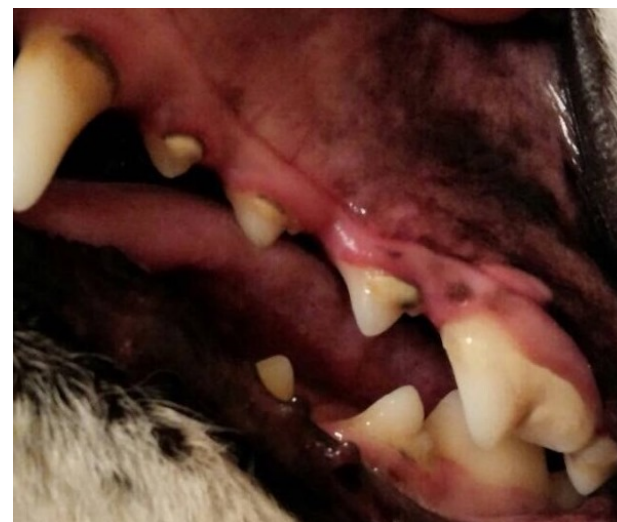
初日で効果を感じられ、その後7日間で歯石が少なくなった

✓ 本事例は安全性の保証ができるものではありません。実施される場合にはご自身の責任において行ってください。

1日目



7日目



(2) 生の手羽先

- ✓ 鶏の骨は加熱すると縦方向に裂けやすくなり、消化管に刺さるなどの事故につながる可能性があるため十分にご注意ください。
- ✓ 本事例は獣医師の監修のもと行いましたが、安全性の保証ができるものではありません。実施される場合にはご自身の責任において行ってください。

①素材選択の根拠

- ・ 固さと筋繊維（デンタルフロス効果）がある
- ・ 入手が簡単
- ・ 生のほうが骨が裂けにくい

②与えた量

2日に1本（丸飲み防止のため飼い主が手に持って噛ませた）

③期間

10日間

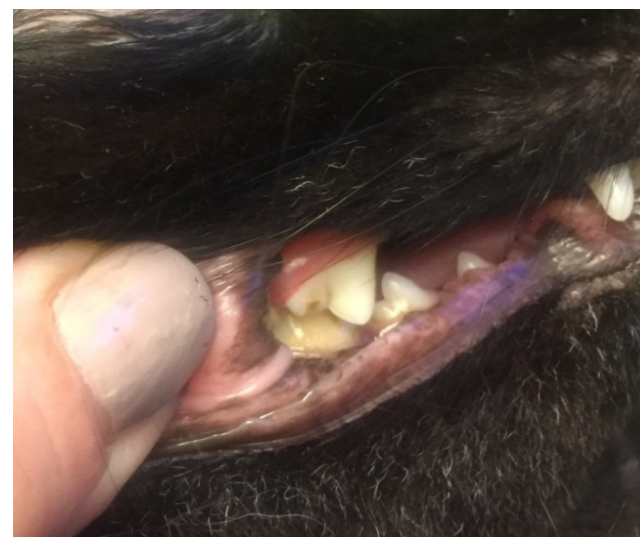
④結果

手羽先1個目で後臼歯の両端の歯石が取れ、5個目で歯石がほぼなくなった

1回目（1日目）



5回目（10日目）



(1) 歯石除去効果

実験後はいずれの犬も歯肉の腫れが治まったうえ、鮮やかなピンク色になりハリとツヤが出ました。また、口臭が減り、おもちゃや犬が舐めた場所など、唾液が付着した後の悪臭を感じなくなりました。

(2) 今後の課題

今回の実験効果の要因やその後の犬の身体への影響については、今後も口腔内の環境や、腸内の環境をはじめ、各種調査・分析を行っていきます。

なお、実験で使用した手羽先については、口腔内や食道に刺さるなどの事故につながる可能性もあるため、必ずしも推奨できる食材ではありません。

鳥の骨が折れた場合は他の動物と比べて鋭利に尖った状態になるため、鳥の骨は食材には不向きと考えられます。安全性を担保しながら、より簡単な方法で歯石除去していくことを追求することは、今回の実験の大きな課題の一つであり、また、十分な実験数を確保できていない点も課題であるため、各課題解決に向けて今後も探究し続けます。

最後に、食材には好き嫌いもあるため、離乳期から歯みがきを習慣化し毎日のケアを継続することをお勧めします。